

令和元年度 女性技術者のつどい 開催報告

公益社団法人 日本技術士会 鳥取県支部

赤井 伸江

サンイン技術コンサルタント (株)

1. はじめに

鳥取県内の建設コンサルタントなど建設産業に従事する女性技術者を対象とした「女性技術者のつどい」を鳥取県測量設計業協会と共催で開催し、11団体、33名の女性技術者（うち企業19名、官庁公法人14名）に参加いただくことができました。

昨年に続き2回目の開催となる今回は、建設系技術者にとって関わりが大きい「防災」をテーマに講演、ワークショップを実施しました。



写真-1 伊藤支部長による講演

2. 会の概要

日時：令和元年9月5日（木）

会場：鳥取県立倉吉体育文化会館（倉吉市）

プログラム：

- [1] 講演「女性による地域防災力の向上について」 講師：伊藤徹氏／中国本部鳥取県支部長
- [2] 防災ワークショップ“クロスロードゲーム” 進行：山根清香氏／鳥取県支部

〔2〕防災ワークショップ“クロスロードゲーム”

- 作問と全体進行：山根清香
- 各班ファシリテータ：澤麻衣子、田子京子、赤井伸江、伊藤支部長、山本副支部長
- 備品準備・記録：山脇さらら

“クロスロードゲーム”は、阪神・淡路大震災で対応にあたった神戸市職員へのインタビューをもとに作成されたカードゲーム形式の防災教材です。YES・NOのどちらか何らかの犠牲を払わなければならないような「ジレンマ」のある設問に回答し、その理由を話し合い、自分の気づかない価値観や視点を知り、理解することを目的とします。

3. プログラム

〔1〕講演「女性による地域防災力の向上について」

伊藤支部長に災害、防災、特に地域防災について講演いただきました。鳥取県の災害の特徴や女性視点の地域防災など身近な話題、災害時に生じやすい差別や人権侵害などの課題について解説いただきました。

女性技術者に期待する役割として、地域防災に日ごろから参画し、災害時には率先して避難者となり、また要配慮者の支援を行うこと、そのためには日頃から防災について想像力と創造力を養うことが重要というお話を伺い、社会・地域・家庭の架け橋としての女性の役割を考える機会となりました。



写真-2 山根氏によるゲームのガイダンス

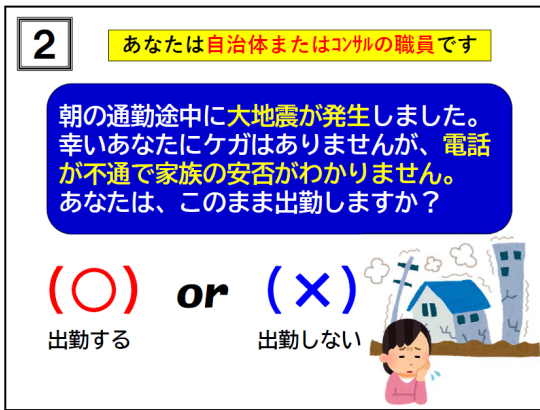


図-1 設問例

ゲームの結果、人の話を聞くことや新たな視点を知ることはもちろん、職場の災害時連絡体制や出勤ルールなど他社や役所の日頃の備えを垣間見ることもでき、大変有意義な内容となりました。



写真-3 話し合いの様子

鳥取県支部では県内の団体向けに防災クロスロードゲームを実施し、社会貢献活動を行っています。今回ゲームを体験したことにより、女性技術者がファシリテータとして地域社会に貢献していくことも期待できると考えます。



写真-4 各班の結果発表の様子

4. アンケート結果

閉会後に実施したアンケートの結果、満足度は「満足-70%」で昨年の結果「満足-41%」よりも向上しました。理由（自由回答）に女性技術者同士の交流、進行の良さ、防災テーマ、相互参加型などが挙げられました。

今後の企画の問いに対しては「建設業関連の女性技術者との交流会」の回答が最も多く、「現場見学会」、「技術講演会」、「技術者を目指す女子学生との交流会」が続き、概ね昨年と同様の結果となりました。また、女性技術者のつどいの中で男性と意見交換する機会があるとよいとの意見もありました。

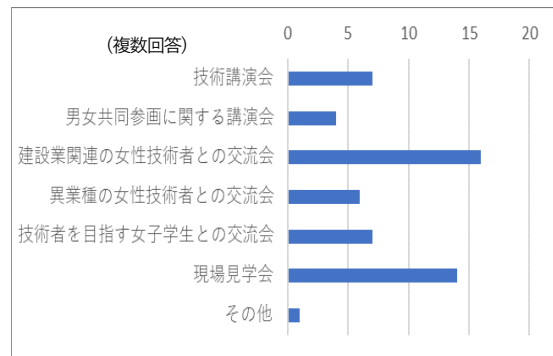


図-2 アンケート結果（希望する企画内容）

5. あとがき

アンケートの結果にありましたが、「女性技術者のつどい」を年2回開催できれば参加者にとって身近に感じられるのではないかと思います。ただ現在、企画立案を行っている県支部の女性会員だけでは現業との両立が難しく活動が負担になるときもあります。今後は参加者と協力しながら企画運営できる方法を検討していけたらと思っています。

県支部のみなさまのご指導とご協力もよろしくお願いいたします。